

令和 2 年 練馬区少年野球大会 投手の投球数制限の運用について

■ 投手の投球数制限

- 一人一日 70 球以内とし、70 球に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。
※70 球以内であれば他の守備についても再び投手に戻ることができることとする。
(低学年 (4 年生以下) の投球数制限は 60 球とする)

「スポーツを通じた子どもの健全な成長をサポートする」子どもの権利とスポーツの原則、「学童野球の育成主義」に基づき、“医学的見地”“競技運営とチーム編成”を考慮し設定されています。

■ 投球数を数える運用

- 1. 担当者：**
試合当該の各チームから 1 名ずつ、対戦相手チームの投球数を数える人員を協力いただく。(チームスタッフがバターだが、保護者の方でもよしとする。)
- 2. 方法：**
得点版 (めくるタイプ) を投球一球ごとに速やかにめくる。(ボークの時も投球していれば、数える。)
- 3. 設置場所：**
試合本部席の各ベンチから見える位置に得点版 (めくるタイプ) を設置する。
- 4. 投手が交代した場合：**
別紙の「投手の投球数表」に背番号・投球数を記載し、得点版は“00”に戻し、交代した投手の投球数をカウントする。
以前に投球した投手が再び投手に戻り、更に交代した場合は、「投手の投球表」の当該投手の同じ行に投球数を記載する。
- 5. ベンチから投球数について確認があった場合の処置：**
試合当該ベンチのいずれかから球審に対して本部席投球数の確認があった場合、
→両チームの監督と本部席は、本部席で本部席とそれぞれ両チームスコアラーが数えた投球数を確認する。
→2 者が同一数の場合は、多数決とし、
→3 者すべての数が異なった場合は、本部席を正とする。

当該イニングで 70 球に到達しそうでない限り、いたずらにイニング途中で確認をしないこととし、イニング終了時の確認とする。
次イニングのプレイがかかった時点で、本部席投球数を正とする。

※タイマーは止めないので、それぞれ速やかに対処をすること。